

## 第2章 お兄ちゃんとチカ

レモンのチル友、チカだよ。

こないだのレモンのライブは神すぎた。

お兄さんのオナニー中継ってだけで神なのに、

まさかの「クソ雑魚な包茎」。

なのに、「めっちゃ絶倫」。

鬼ヤバだよ。

その後、レモンがグルチャにあげた早漏チャレンジの動画がバズって、

チカだけじゃなく、ナオとミカもチンポを予約！

わかりみしかない。

最初はチカ！ 一番乗り！ 雑魚じゃない包茎チンポ…楽しみすぎ!!

×                    ×                    ×

(宿屋ジングル SL)

(あくび)

眠う…。

レモンのお兄さんのチンポが興味ちんちんすぎてゼンゼン寝れなかった…。

なんたって、今日！ お兄さんのスパダリチンポと会うっ！

場所はレモンと相談…両親が留守って理由でお兄さんの部屋になった。

いきなり部屋とか、チカ、デリヘル？

超興奮した (笑)。

ついでにレモンもどおって誘ったら、めっちゃ拒否られた。

あんな動画撮るクセに3Pはイヤみたい。(笑)。

そろそろ時間…！

家を出る前に玄関横のデカ鏡で身だしなみチェック。

ん…♥

メイクも…ツインテも…服も…キマってる♥

制服指定は謎だけど…。

プレイ？

とにかくカワイイ。

うん、今日もチカが一番カワイイ♥

あ。

おっぱいだけはレモンに負けるわ。

さすがのチカさんも牛さんには勝てねーっ (笑)。

×

×

×

そして。

チカは今っ、お兄さんの部屋の前。

出迎えてくれたレモンは女握り（めにぎり）グータッチでお見送り。

人差し指と中指の間に親指を挟んで握ると女性器やエッチを表すらしい。ヤバ。

何回か遊びに来てるけどお兄さんの部屋に入るのは初っ。

（ドアノック）

「（緊張しつつ）は、はじめまして…レモンのチル友のチカです。

今日はよろしくです♥」

（ガチャ）

お兄さんの部屋は思ったよりキレイ。

当たり前だけど、ちゃんと掃除してるのは大事。ポイント高い。

座布団もフワフワふかふかで座り心地イイ。ポイント二倍。

そーっと上目遣いでお兄さんの顔をチラ見してびっくり。

「うわっ。レモンに似てるっ」

いきなりのツッコミに首をひねるお兄さん。

「いやいや、目がそっくり！

レモン、チカの次にモテるからな～お兄さんも地味にモテそ～～（笑）。

カノジョいるんですかあ？

…モテない？

うっそ！ マジ意外ですー。

チカもいないですけどー。

モテないワケじゃないです。

しょっちゅう告られるし、可愛いのは自覚してますんで♥

でも、今はいらなすぎ！

（嫌そうに）付き合うと全員、超束縛してくるんですよ～？

しかも、嫉妬が超エグい…！

チカが可愛いからってヒドいと思いません～？

あっ。（ももを叩く）

そんなことより聞ーてくださいお兄さんっ！

実はチカも…オナニー見られたことがあるんですっ！

アニっに！

あ、チカのリアルの、です。

キッカケは…部屋の鍵かけ忘れ！

気持ちよくオナってた日に限って…やっちゃった（泣）。

（嫌そうに）そっからは兄のターン。

イロイロありえないこと言われたんです！

『オナニーのこと黙っといてやるからオレの言うこと聞け』。

『チンポ見てくれ』。

『抜いてくれ』。

『先っちょだけ挿れさせくれ』。

とかとかっ。

妹相手にアタマおかしーっ。

全力で拒否ってたらず勝手に脱ぎはじめるし！

（思い出し蔑み）でもでもっ。

パンツからボロンした瞬間。

ドピュ（笑）。

興奮しすぎたせいでお漏らし射精（笑）。

アレはウケた。

あんな早いの初めて見たもん。

よくよく見たら…ちんぽ皮被ってて、さらに爆笑。

チカの中で包茎がクソ雑魚チンポになった瞬間でした。

女の子を相手にできないオナ専欠陥チンポじゃんって言ったら泣いちゃった。

しかも号泣（笑）。

なんか本人気にしてたみたい。

メソメソうぎー。

結局チカの下僕になるってことで許しましたけど！

…エグい？

え〜いろいろ便利ですよお下僕。

ドMならオススメかも？

お兄さんも下僕になります？

あ、ごめんなさい。二人もいらなかった（笑）。

ちなみに、カレピを募集してないチカが今募集してるのは…。

ペット、おもちゃ、チンポ…かな？

今日は〜お兄さんの雑魚じゃない包茎チンポ…楽しみだったんです♥」

グイグイくるチカにたじたじのお兄さん。

「あれえ……お兄さん。  
ちょっぴりおつきくなってますん？」

ニコニコでチノパンの股間の膨らみを指差す。

「チカの話でコーフンしちゃったんですか??  
ちょっと立ってみて下さい♥」

膝立ちになったチカの前でおずおずと立ち上がるお兄さん。

「これが噂のなろうチンポ……っ。  
今脱がせますっ！」

飛びつくようにお兄さんのベルトに手をかける。(カチャカチャ)  
次にファスナー。(ジー)  
そして、チノパンを下ろす。(スルッ)

「お兄さんはブリーフ派なんですね♥」

テントを張った黒ブリーフが丸出し。

「めっちゃもっこりして…かわゆ♥ ずっと見てられる」

うっとりねっとり見つめながらパンツに手をかける。

「下僕兄は、おもらし射精したけど…。  
お兄さんは…どうですかね？」

ニヤニヤしつつ、手に力を込める。

「チカ、気になります！」

(脱衣)  
(ぶるん)

「出たっ♥」

注目のチンポがブルッとニョキン。

「おっ。

お〜〜〜っ。  
ドピユらない！  
お兄さんの勝ち〜〜♥  
さすがなろうチンポ（笑）」

いきり立つ包茎チンポをジロジロ。  
舐めるように観察。

「んふ。  
写メとおんなじだあ。  
でもでも、下僕兄よりちょっとおっきいかも？」

感心しながら、カリ首のあたりをヒョイツとつまむ。

「あ〜…っ。  
コレ！  
チカ好きっ。  
好きな感触っ♥  
硬いのに柔らかくて気持ち〜♥」

嬉しそうに何度もフニフニ。

「ん…っ♥  
無限にフニれる〜♥」

膝立ちのまま、夢中でフニフニ。  
まんざらじゃない顔のお兄さんを見て、つまむ指先に力を込める。

「ん？  
剥けない。  
きつつ…。  
お兄さん…剥けないですっ。  
ンンンっ。  
めっちゃ剥きづら〜〜っ。  
んわっ!?  
なんかドクって出た。めっちゃ出たっ。  
まさかの剥きドピユ…!?

あ、ちがっ。  
精液…じゃないっ、ガマン汁っ。  
えっぐう…吹き出たのはじめて見た…！

手えぐっしょぐっしょ…。

あ。

ヌルってなって…剥きやすくなった？ かも？

んっ。

おお。

剥けるっ剥けるよお兄さんっ！

ンンっ。

ほら。

亀頭クン見えてきたっ♥

お？

なんかいいニオイ…。

(鼻で嗅ぐ：クンクン)

わっ、チンポいい匂いっ！

…洗えって言われた？

さすがレモン (笑)。

いい匂いのチンポとか、初めて…！

しかも、ピッカピカのつるつるでかわゆ…♥」

褒められまくって真っ赤なお兄さん。

「レモンがお兄さんのドーテーをよろしくって言ってたのを思い出しました。

ガマンもヤバくなってきたのでゴムつけますね…♥」

今度は別の意味で真っ赤なお兄さん。

(パチン)

「おっけ♥

準備できたっ。

ヤバあ♥」

腰が抜けたように、床にペタンと座り込むお兄さん。

「ドキドキしますね…お兄さん♥」

チカは胸を押さえながらゆっくり立ち上がって、両手でスカートの裾をつまむ。

「このまま手を持ち上げたら…カーテシー。

もっと上げたら…？

答え：チカの勝負下着が見えちゃいます (笑)」

裾を上げると、お兄さんの視線も上がる。  
裾を下げると、お兄さんの視線も下がる。  
チラリズムに食いつくお兄さん。

「お兄さん必死すぎ。  
そんな見たいなら…思いっきり見て下さい♥」

裾から手を離す。  
重力に負け、垂れ落ちるスカート。

(SE)

「言ってることが違う？」

泣きそうな顔で頷くお兄さん。

「裾はあげません。こーします♥」

スカートの中に手を入れ、一気にパンツを脱ぐ。

(脱衣)

「足をヒョイってすれば〜…脱ぎたてパンツ〜♥」

ポカンと口を開けてるお兄さんの頭にポイっ。

(SE)

「生で見て下さい♥  
ホカホカですよホカホカ (笑)」

イエローのパンツを載せたままフリーズするお兄さん。

「固まっちゃった (笑)。  
隙あり〜〜っ♥」

お兄さんの首に手を回し、押し倒す。

(SE)

そのまま顔を近づけ、キス。

「ちゅ♥  
んふふ。  
キス好き♥  
ちゅ♥ ちゅ♥  
お兄さんはどお？  
パンツより…ちゅ♥  
好き？  
ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅっ♥」

キスの雨に夢心地のお兄さん。

「すっかり夢中♥  
ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅ♥  
大人のキスをしたらヤバそ…。  
興奮しすぎて…ワンチャン射精？  
んふふ。  
それはそれで面白いかもっ。ちゅ♥  
お兄さん…覚悟♥」

お兄さんの上に乗りながら大人のキス。

「はあっ♥ あむ♥ んむう♥ れりゅっ♥ れろろお♥  
れろろれりゅ♥ れろんれろんれりゅうう♥」

お兄さんの口の中で舌が踊る。

「んっ♥ んうう……♥ はあ…♥ ちゅ♥ はあっ…♥  
大人のキス大好き♥  
唾液ガンガン交換しちゃう♥  
くちゅくちゅ♥ ぴちやぴちや♥ くっちゅびっちや♥」

一方的にやられまくりのお兄さんの舌も徐々に反応。

「れろれろれろれりゅれりゅんれろれりゅっ♥」

二枚の舌がうねうね絡み合っ離れない。

「れりゅれりゅれりゅれりりゅれりりゅんれりりゅっ♥」

キスをするほどチンポはギンギン。  
密着してるチカのお腹にぎゅうぎゅう当たる。



「お腹にチンポ…グイグイきすぎ♥」

一旦ブレイク。キスを止めカラダを起こす。

「おへソはムリ（笑）」

お兄さんをまたぎ左手でチンポを掴む。

「こっちだよ…チンポさん♥」

膝立ちになってエイムを合わせるように、腰をくいくい。  
チカの熱くてぬるっとしたところが、先っちょをかすめて痺れる。

「んんっ♥

お兄さん…このまま腰下ろせば…童貞卒業ですよお♥」

真っ赤な顔でアウアウ答えるお兄さん。

「何言ってるかわかんない（笑）。  
ハメるとこ、ちゃんと見てて♥」

左手をチンポから離し、スカートの裾を捲り上げてから、  
座るように…ゆっくり腰を沈める。

(挿入)

「(感じつつ) あ〜チンポ入るう♥ オマンコ入ってくるう♥  
んんんっ♥ 熱くて硬い童貞チンポ入っちゃううう♥」

完全に視線が釘付けのお兄さん。

「見てる。めっちゃ見てる。ガン見してる♥  
でも、どっか、上の空あ〜♥  
わかる♥  
チカも初めての時、現実感ゼロ。  
夢見てるみたいだったもん♥  
気持ちいいでしょ？  
あったかいでしょ？  
夢じゃない。ガチエッチ♥」

お尻がぺたん。(SE)

「(満足&充足感) んん♥ 童貞卒業おめえ…♥」

パカッと口を開けたまま見届けるお兄さん。

「チカも…久々のチンポ…イイ…♥」

つながったまま、お兄さんに覆いかぶさる。

「んんっ♥ ンんんん♥ オマンコキュンキュンするっ♥」

無意識に恋人繋ぎ。全身も超密着。  
夏制服越しのおっぱいぐにゆぐにゆ。

「ん～～んんっ♥」

ほっぺすりすりしながら、キス。

「ちゅ、ちゅ、ちゅ、ちゅう。  
ハメながらのキスサイッコお♥  
ちゅう、ちゅう、ちゅっちゅっ。  
めちやキュンキュン♥」

すりすりしながら、舌をねじ込む。

「(舌をねじ込む) ンちゅっりゅっ、ちゅうりゅりゅれろれろ。  
はあはあ、はあっ♥

(ディープキス) れりゅ、れりゅっちゅうじゅるじゅ、ぢゅううっ。  
れりゅぢゅる、れりゅりゅ、ぢゅうぢゅるぢゅる、れりゅりゅぢゅるぢゅる」

天然ASMRに怒涛のキスがお兄さんをAED。  
ぶふおっと咳き込み、夢から覚醒。

「えあっ!？」

さすがにびっくり。  
慌ててキスをやめ顔を覗き込む。

「大丈夫っ？ キス苦しかった??」

真っ赤な顔を左右にブンブン。全力否定するお兄さん。

「(感じつつ) よかったあ…。  
久々のチンポヤバすぎて…。  
挿れただけでトンじゃった…♥」

ニヘラッと微苦笑しながら、体を起こす。

「…んあっ♥」

角度が変わってチンポがぞりっ。  
反射的に声が漏れる。

「(照れる) 今のは…ちよつとっ」

はむっと唇を嚙んでもじもじ。  
恥ずかしそうに腰をくねらせる。

「ああん♥」

くねっただけで、またまたキュン。

「ええ…チカ敏感すぎっ?!」

確かめるように、もう一度くねってみる。

「ン……えいつ。  
あ…♥  
ん～～～えいつ。  
あ…ッ♥  
はああっ。  
やっぱ敏感…かも？」

一度どころか三度くねってようやく理解。

「それとも…チンポの相性…?  
お兄さん? どう思います??  
わわっ! 顔ヤバっ!」

改めて顔を向ければ、だらしなくゆるみまくった表情のお兄さん。

「(感じつつ) えっとお…。  
色々察しましたあ♥

もつとくねくねしますね。  
どうなっちゃうのか…♥  
見たいですっ♥」

言うが早いか、大きく身を振じる。  
別の生き物みたいに腰がうねうね。

「あっ♥  
グリってきたああ♥♥  
ああっ♥  
うわっ♥  
ああ…っ♥  
これうっわ♥♥」

うねるたびに声のオクターブが上がる。  
すると、ひときわ焦った声を上げるお兄さん。

「…めっちゃヤバい？  
へ？ 出る？！  
マ？？？」

(1st 射精)

オマンコの中をチンポがビクビク跳ねる。

「っ！？」

ゴムの中に熱い飛沫がドクドク弾ける。

「あうっ?! めっちゃ射精してるっ！」

またがったチカを持ち上げるように腰を突き上げるお兄さん。  
幸せそうなイキ顔で長い射精をキメる。

「はう…やっとならビクビク止まった…。  
イクのは早いのに射精は長いとかヤバすぎ。  
ん♥  
んんっ♥  
ちょっと待って。  
チンポ…まだビンビン♥  
ビンビンしてるっ♥  
LINE 通り…イッてもふにゃらない絶倫チンポ…。

マジで続けて出来ちゃう…」

射精の余韻に浸りながらもコクリと頷くお兄さん。

「微妙に得意げな顔… (笑)。

えっとお…。

それならあ…。

このまま膣コキしちゃいます♥

フツー膣コキは男の快樂のため。

でも今からする膣コキはチカのため。

チカが気持ちよくなるため。

イクためにチンポコキます。

たぶんお兄さんも気持ちいいです。

ううん絶対気持ちいいです。

なのでめっちゃイっちゃうと思います♥

でも、チカは知りません。止めません。

チカがイクまでノンストップ♥ です♥」

早速、お兄さんの胸に手をつき腰を動かし始める。

(抽送：始)

見惚れるくらい見事な上下動。

亀頭をくにゆくにゆ。

裏筋をにゆるにゆる。

肉竿をずにゆずにゆ。

擦れるチンポの全部が気持ちいい。

「あう♥ あん♥ あん♥」

オマンコの奥にコツン。

降りてきた子宮口をノック。

「あんっ♥」

ノックノックノック。

「ああンッ♥ あん♥ あん♥ あん♥」

温かくて鈍い快感が下腹部から広がりまくる。

「あん♥」

チンポの先っちょがノックするたび、エロい声。

「あん♥ あん♥ あん♥ ああん♥」

チンポの先っちょがノックするたび、エロい顔。

「あんっ♥ あんっ♥ あんっ♥ ああんっ♥」

頬は色づき。眉間はキュッ。ぷるつとした唇はパカッと開きっぱなし。

「ん♥ ン♥ ンっ♥ ンんんっ♥」

腰のグラインドが変わる。

前に、後に。

前後に、揺すり始める。

(ギシギシ)

「あふうん……♥ あん…あぁっ…きつ、きもっちい♥」

喘ぎ声にベッドの軋む音が重なる。

官能二重奏。

「めちゃ…めちゃめちゃ…きもっちイっ♥」

腰が動くたび、お兄さんのチンポはギンギン。

「はあ～アがるう♥ 気持ちよすぎテンアゲえ♥」

ぱあっと弾ける笑顔。

おもむろにスカートの裾を掴むと、口元まで引き上げる。

(抽送：止)

「アゲアゲ大サービス♥

つながってる所…ご開帳♥」

スカートの裾をくわえて、見せつける。

あうあう悶えながら、やっぱりガン見するお兄さん。

「(裾をくわえながら) まためちゃ見てるう♥

どおぞ…♥」

見られてるのを意識して…めっちゃゆっくり動かす。  
前後じゃなく、ふたたび…上下。  
腰をぬう〜と引き上げると、  
マン肉が伸びて肉棒を追いかける。

「(くわえながら+感じつつ) おっ♥ おおっ♥ おほっ♥ ヤバ♥」

すごい声を上げながら腰をぺたん。

「これヤバ…♥」

すぐにまた腰を引き上げる。余韻に浸らない。貪欲に次を求める。

「ヤバ♥ もっと♥ コレもっとおっ♥  
おっ♥ おっ♥ ヤバ♥ おっ♥ おっ♥ ヤバあ♥」

気持ちよすぎて逆にゆっくりできない。  
勝手に速く、大胆になる。

(抽送クレッシェンド)

「(喘ぎ声限界まで無呼吸)  
おっ♥ おおっ♥ おっ♥ おほっ♥  
ヤッ♥ おほっ♥ おっ♥ おっ♥ おっ♥ おっ♥  
ヤッバ♥ チンポっ♥ おっ♥ ほっ♥ おっ♥ おひっ♥

ぺたん。(SE)

「(大きく息継ぎ) はあっ。はあっ。はあっ。はあ…っ」

くわえてたスカートの裾を吐き出す勢いで息をつく。

「ぎ、ぎ持ちよすぎっ…息するの忘れるう…。

(整息しつつ感じ始める)

はあ…っ…はあ…。

はあ。

はア。

あ…ン♥」

無意識にお尻をグリグリッ。

入ったままのチンポがチカのリビドーを刺激して休ませない。

「ンンっ♥」

ゆさゆさ小刻みにグリグリ。

「んはっ♥ ンンっ♥ あんんっ♥」

円を描くようにグリグリ。

「あっ♥ あうっ♥ あうんんっ♥」

両方混ぜるようにグリグリ。

「んくっ♥ ああっ♥ あふんっ♥  
あんっ♥ あっ♥ あんんっ♥」

ひとしきりグリグリすると、  
自然に前後にグラインドし始める。

「はう♥♥  
はうっ♥ あん♥ あん♥ あんん♥  
ああん♥ あん♥ あっん♥ んっ♥」

ずっちゃずっちゃエロい音を立てながら覆いかぶさる。

今日二度目の密着。

目と鼻の先に赤く火照ったお兄さんのガマン顔。

「さっきぶり♥」

腰を振りながら唇を突き出してキス。(チュ)

舌を突き入れて大人のキス。(むちゅう、くちゅ、くぢゅ)

舌を絡めて、ほじくって、吸って、本能のキス。(くちゅう、くっちゅ、ぢゆる、ぢゅりゅ、ぢゅっぢゅううう)

「(キスしながら)

はあはあ。チカあ…キス好き♥ (ちゅ、くちゅ、ちゅう)

ちよお…好き♥ (ちゅっぱ、くちゅくちゅ、ちゅうううっぱ)

あっ…チカの中でチンポギョんってなった♥ (ちゅうちゅっ)

イクう? (ちゅく)

イクんですかあ? (ちゅぶ)

キスありの膣コキでイッちゃうんですね♥ (ちゅう)



イイですよお♥ (ちゅう)

好きに… (ちゅっ)

ど——ぞ♥ (ちゅっ、ちゅうちゅうちゅふ、ちゅっば、ちゅうちゅうう)」

(2nd 射精)

「(興奮しつつ) ああ！ チンポビクビクっ! ?

(イキかけ) ふあっ！ ゴリゴリっ?! ぎ持ちっ♥

今の…ヤバあ♥

ちょおヤッバあ♥

はあん…。

お兄さんン…もっとイッてえ♥ (ちゅう)

今の…好き♥ (ちゅ)

ビクビクからのゴリゴリっ…。

もっと味わいたい♥ (ちゅ)

だから、(ちゅ)

もっと。(ちゅう)

まだ硬いし、(ちゅっちゅ)

もっと射精っ♥ (ちゅ、ちゅう)」

ずっぷし根元まで啜えたまま、

また味わおうと動き始める。

さっきよりも激しくエロい腰つき。

八の字にうねって踊る。搾り取ろうとする膣コキ。

(激しくうねる)

「(キスしながら) ぎ持ちっいいいい♥」

口パクパク喘ぎまくるお兄さん。

「めっちゃ、ぎもちいいいいいい♥」

ヨダレ垂れ流しまくるお兄さん。

「めっちゃめっちゃ、ぎもちいいいいいい♥」

アへ顔晒しまくるお兄さん。

「(感じつつ) あはっ…スゴイ顔お♥

んんっ。

チカも…今ブスカもっ。

でも…止まんなああああ♥」

(3rd 射精)

「ふぁッ!? ビクビクまたきちやあ♥  
ゴリとっあひゅっあっひゅう♥ ゴリゴリあああああん♥  
ンンんん♥ やっぱイイ♥」

鬼すぎる膣コキにあっさり射精。  
ドピュドピュしてビクビクっ。

「きもちいいいい♥  
ビクってゴリゴリ…っ大しゆき♥ ハマリゆううう♥」

激しすぎるイキオイでチンポ抜ける。  
栓が抜けたオマンコからマン汁が大量スプラッシュ。

(SE)

「あ…っ。  
抜けちゃったあ…っ」

精液でパンパンなゴムもずるりん。  
膣穴の入り口に引っかかって置いてきぼり。  
遅れてゼリー状の精液がゴムからドロドロこぼれ落ちる。  
抜かずに連続射精だったから量がエグい。

(ドロボタ)

「(興奮冷めず) ダメえ…。  
チカあまだイッてない…」

引っかかったままのゴムを無造作につまむとゴミ箱へポイツ。

(in ゴミ箱)

「このチンポで…もっともっと…膣コキ♥」

チンポを掴むと腰をぐいっと近づけ一気にずにゆる。

(挿入)

「(興奮しつつ)  
おかえりっ♥  
んんっ♥  
めちゃフィット♥  
はあ…♥  
ハメっばなしだったせい？  
ンンっ。  
んんン…。  
さっきより…熱いかも??  
あ。  
そっか…♥」

急に腰をもじもじさせる。

「お兄さん…。  
ゴムなしでハメちゃった…」  
つまり…。  
中出しはダメです。  
絶対ですっ」

もじもじしつつしっかり釘を刺す。  
あうあうひくひくしながらかすかに頷くお兄さん。

(無意識抽送：始)

「(感じつつ)  
んあっ♥  
あっ、あれ…っ。  
腰動いてる。

勝手に動くっ。  
あっ♥ あん♥  
マジだあ～～。  
んんン♥ アン♥  
はあっ♥ あっ♥ あん♥  
止まんない～～っ。  
ああン♥ はっ♥ ああん♥  
生チンポきもちっ♥ 鬼ヤバァ♥  
はあっ♥ あん♥ あっん♥ はっ♥ あっ♥ はっ♥」

チカの喘ぎ声に重なる嬉しそうなお兄さんの声。

「男子がナマでしたがるの…わかつちやった♥  
あっ♥ あん♥ あっ♥ ああん♥」

チカの喘ぎ声にハモる幸せそうなお兄さんの声。

「女子もナマゆるしちゃうの…わかるうう♥  
ふあっ♥ んう♥ ああ♥ あん♥ あっ♥」

お兄さんを肉ディルド扱い。  
一方的に腰を振って振って振りまくる。

「あ♥ あっ♥ あっ♥ あっ♥ やっ♥ あっ♥ あっ♥  
あっ♥ あん♥ Gスポっぞりぞりっ♥♥  
生最強♥ おかしくなっちゃっああ♥♥  
はっ♥ ああっ♥ ひゃっ♥ ん♥ あっ♥  
あうっ♥ あっ♥ チンポっ♥ 奥っ……おとおっ……♥♥  
当たるっ♥ し、子宮…当たってるうっ♥  
めっ、めちやめちやきもちいつ♥  
いいっ♥ 生コキよすぎっ♥  
おっ♥ あおっ♥ おおおっ♥ ほおおっ♥♥」

フツウじゃない喘ぎ声。  
カラダが小刻みに痙攣しはじめる。

「イ♥ イキそっ……！  
オナニーでしかイッたことないのい…♥  
はじめて…セックスでイっちゃう♥  
包茎チンポでイカされちゃう♥  
(イキ声) あっ♥ お♥ おっ♥ おほおおおっ……♥♥  
あっ♥ あおっ♥ ほっ♥ ほおおお……っ♥♥  
ほおっ♥ おほおおお……♥♥ おほおおお……っ♥♥  
おほおおお……っ♥」

恥ずかしすぎるイキ声。  
オマンコがぷしぷし潮吹きまくる。

(ぷしぷし)

「はあっ♥ はあ♥ はっ♥  
イ…♥  
イッてない♥  
はあ、はあ…イクわけない。

まだイッてないから…続けりゅ。

あ♥ お♥ おっ♥」

イッたけどイッてないから生コキ続行。

(続行)

「あ♥ あっ♥ あっ♥

さっきよりも…敏感っ♥

ひっ♥ あひっ♥ ひい♥ き、気持ちよすぎ♥」

止まんない。

オマンコの中ほじってほじくってえぐる。

「あ♥ あっ♥ あっ♥ や♥ あっ♥ あっ♥ あっ♥ あっ♥

おふっ♥ ほおおっ♥ おっ♥ おおおっ♥」

止まんない。

オマンコの気持ちいいところ新発見祭り。

「あ♥ あっ♥ ここだめ♥

おっ♥ おおおっ♥ だめ♥

おっ、ほおおおっ♥ だめだめだめ♥」

腰ガクガクっ。

イキそうになって腰もつれる。

「(イキ声) おっ♥ おおっ♥ おっ♥ あっあっあっ♥ お、おぐうう……っ♥」

頭の中で気持ちいい火花がバチバチっ。

火花が弾けまくって点滅。

まぶしい。

「ほおおっ♥ またイク、イっちゃう♥ イグ、イグううううっ♥」

頭の中で気持ちいい花火がドンドンっ。

花火が重なりまくって真っ白。

まぶしっ。

「おおおお♥ オマンコいい♥ ずっと甘イキしちゃう♥

あひ♥ おふ♥ おおおおっ♥♥

おっ、ほおおおおおっ♥ イクイクイクイクイクううううっっ♥♥♥」

あっという間の連続アクメ。ぶっしゃぶっしゃ潮吹き祭り。  
気持ちいい以外わからなくなって、また息するのを忘れる。

「(喘ぎ声限界まで無呼吸) ひっ♥ はあっ♥ はあっ♥ あふっ♥  
はあっ♥ はあっ♥ はあっ♥ はあ…っ♥」

(4th 射精) (腰止)

「おほおっ♥ ビクッて♥ おふっ♥ ゴリゴリッ♥ ほあああっ♥  
めちゃきもちいっ♥♥  
バカになりゆ♥  
ん…んん♥  
…ン。  
…。  
……。  
…。  
あっ!! 中に出したっ!?!」

余韻を秒でぶっ飛ばして怒りの仁王立ち。  
遅れて股間から白濁液がポタポタ垂れ落ちる。

(垂れる)

「バカバカバカっ!  
中出し禁止って言ったじゃないですかっ!」

まだビクビクしてるチンポを見下ろしながら怒りの説教。  
縮こまりながらボソボソ答えるお兄さん。

「…出るって何度もいった?  
うそっ…。  
全然聞こえなかった…!

…返事がないから中を出して欲しくなっちゃったのかと思った??  
バ〜〜〜カっ!!  
エロ漫画読みすぎAV見すぎっ!!」

(肩パン)

肩パン連打で猛抗議。

「ああんっ。まだ垂れてくるう！

お兄さん精液多すぎ！

もお～～っ。

シャワー貸してくださいってか借りますっ!!

レモンにも言っときますんでいっぱい怒られてくださいっ！」

(ドスドス足音／ドア開)

「(照れ怒り) チンポは合格ですけどっ！」

(ドア閉)